

22の講義内容 注釈書類の引用文献—その3 和文資料—

和文資料を代表する『源氏物語』については、前期に最古の注釈書『源氏物語奥入』について概要を触れてきたが、今回は龍門文庫藏『河海抄』の記述について検討しておくことにする。

『河海抄』は、紫式部が寛弘年間に書かれた光源氏物語を注釈した書物である。龍門文庫藏本は、「南北朝時代の四辻善成（よつじぜんせい）（一三二六〜一四〇二）の『源氏物語』の注釈書。二〇巻。二〇冊。縦 28.0 cm ×横 21.0 cm。楮紙、袋綴じ。川瀬一馬氏は、巻三、四は補筆だが、全体として室町初期の写とする。第二十巻末に散位基重が永和二年（一三七六）十一月から五年（一三七九）三月まで、四辻家から借りだして書写したという元奥書を持つ、いわゆる「中書本（成稿本以前の形態のもの）」系統の古写本」という資料である。

○めさましきものに 暁ノ目覺草 奥入水原抄に載之不審

案之此義別事也。侍に冷眼と作此心也。たとへはすさましくみたる也。そねミたる様なる心也。

○いとあつしくなりゆき

後漢書云日生男如狼於恐其胚生女如鼠恐其武

伊弉諾尊神切既畢 靈運當遷日本記

定家門統云あやうき心也云云日本記のことくハ病などの事也

大都ハ同心抄

ことさらにかろめろうぜらるゝに  
 軽 嘩 ケイロウセラル テウロウセラル、也  
 〔卷第五・第七 54左⑩〕

〇に ニラム 鬼 文選 斜眼 詞遊仙窟 耶睨 日本記 睚眦 新猿 樂記  
 〇に ニラム 鬼 文選 斜眼 詞遊仙窟 耶睨 日本記 睚眦 新猿 樂記  
 〇に ニラム 鬼 文選 斜眼 詞遊仙窟 耶睨 日本記 睚眦 新猿 樂記

〇に ニラム 鬼 文選 斜眼 詞遊仙窟 耶睨 日本記 睚眦 新猿 樂記  
 〔卷第六・41右④〕

〇わたつうみにしなへうらふれひるのこのあしたゝさりし年ハへにけり。  
 大海 ワタツミ 万葉 海君 ワタツミ 同 海神 ワタツミ 日本記 海底 ワタツミ 喜撰或 万葉  
 わたつミハ海神の名也。山神をハ山づミと日本記  
 によめり 日本記 竟宴 庄子にも北海君小龍王 々々  
 〔卷第六・明石45右③〕

〇わたつうみにしなへうらふれひるのこのあしたゝさりし年ハへにけり。  
 大海 ワタツミ 万葉 海君 ワタツミ 同 海神 ワタツミ 日本記 海底 ワタツミ 喜撰或 万葉  
 わたつミハ海神の名也。山神をハ山づミと日本記  
 によめり 日本記 竟宴 庄子にも北海君小龍王 々々  
 〔卷第六・明石45右③〕

まぐなぎ 摩愚那妓 日在記  
 蠅ハ虫乃名也。春季夏始などに蠅のことく  
 なる虫の目邊ニ飛まかふ物也々。ひらめきかな  
 かなしき振舞をいふなり。つくりてとハそ乃  
 躰をまねひたる也。

○まぐなぎ「平上濁上去濁」つくりてさしをかせたり

蠅 此云 摩愚那妓「平上濁上上濁」日本記

蠅ハ虫乃名也。春季夏始などに蠅のことく

なる虫の目邊ニ飛まかふ物也々。ひらめきかな

かなしき振舞をいふなり。つくりてとハそ乃

躰をまねひたる也。

〔卷第六・46右①〕

かに見給し夢の後ハ院の御もとの御事を  
 清 佺 亮 明 其音鏘 日本記  
 又明字も有謂之分明見給し夢也  
 古語拾遺旧事本記云阿那夜夜慈竹葉声

○さやかに見給し夢の後ハ院の御もとの御事を

清 佺 亮 明 其音鏘 日本記

又明字も有謂之分明見給し夢也

古語拾遺旧事本記云阿那夜夜慈竹葉声

是此物のねのゆふ

〔卷第七・濬標3左⑥〕

我<sup>ワ</sup>かこころ乃いはけなきまゝに  
稚<sup>イハケナキ</sup>幼<sup>イトケナシ</sup>

○我かこころ乃いはけなきまゝに  
稚<sup>イハケナキ</sup>幼<sup>イトケナシ</sup> [卷第七・濬標4左④]

やひくもて

媚 閑麗也 閑暇 貌甚<sup>文選</sup> 幼<sup>カクナキ</sup>ハタミヤヒカ

なにかこそ昔の中といはれけめ今ハ宮美堵そなりにけり。 [卷第七・濬標13右④]

○みやびかにて

媚 閑麗也 閑暇 貌甚<sup>文選</sup> カクナキハタミヤヒカ

なにかこそ昔の中といはれけめ今ハ宮美堵そなりにけり。 [卷第七・濬標13右④]

ひやく

潜字也 志乃ひやくもる也

○ひめやかに  
潜字也 しのひやかなる心也。 [卷第七・  
濬標13右⑦]

ひかりふあきまけり  
總角 艸考 憶汝 總角時 東坡詩

總角 童名也 見所<sup>ハ</sup>ひやくもる也  
牧童<sup>ホトトリ</sup>乃よし也

能因哥枕云 冠者或ハ小童名也

○はなちかふあけまき乃こころさへそ

總角<sup>ソウカク</sup> 艸考<sup>クワシキ</sup> 毛詩<sup>モウシ</sup> 憶汝<sup>オモヒニ</sup> 總角時<sup>ソウカクトキ</sup> 東坡詩<sup>トウパシ</sup>

總角ハ童名也。みつゆひたるおさなき躰也。

牧童<sup>ホトトリ</sup>乃よし也。

能因哥枕云 冠者或ハ小童名也。 [卷第七・]

舟とひるを方人へつゝもあつて入せむとゆふ  
 水表 日本記 遠方 彼方  
 橘さ  
 ともももまなく白波乃共をやをも立わたるまし  
 きる丈也 兄 日本記 背男 万葉

● 舟とむる遠方人乃なくハこそあすかへりこんせなと待ミめ  
 水表 日本記 遠方 彼方

拾遺 舟をちかた乃花もみるへく白波乃共にやをも立わたるまし  
 せな夫也。 兄 日本記 背男 万葉 [卷第八・32左②]

舟とひるを方人へつゝもあつて入せむとゆふ

吹呻 曲礼 新猿楽記 欠伸  
 欠伸 曲礼 新猿楽記 欠伸  
 吹鼻 日本記 欠伸

● 宮もあくひうちし給て  
 吹呻 曲礼 新猿楽記 欠伸 [卷第九・朝顔9左⑩]

● ほともなくいひきとかきししらぬをとすれハ  
 吹鼻 日本記 欠伸 [卷第九・朝顔10右②]

たゆき心乃をこたりに  
 堕瀛史記玉篇云徒果久落也懈也。 瀛 兪規久器无也 [卷第十・35右⑧]  
 函瀛史記玉篇云徒果久落也懈也。 瀛 兪規久器无也

● たゆき心乃をこたりに  
 堕瀛史記玉篇云徒果久落也懈也。 瀛 兪規久器无也 [卷第十・35右⑧]